

|      |     |        |                                                         |      |     |     |     |
|------|-----|--------|---------------------------------------------------------|------|-----|-----|-----|
| 科目名  | 社会学 |        |                                                         |      |     |     |     |
| 英語科目 |     | ナンバリング | (https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照 |      |     |     |     |
| 開講期  | 春学期 | 開講学部等  | 経営学部                                                    | 配当年次 | 2年次 | 単位数 | 2単位 |
| 教員名  | 李 為 |        |                                                         |      |     |     |     |

#### 授業概要／Course outline

この講義では、社会学の基本的な概念や理論、そして社会学が取り扱う対象や問題意識について学び、社会的な見方から私たちの社会生活の重要な側面について考えることを目的としています。

社会学は、社会現象を客観的に分析することを目的とする社会科学の一分野です。社会学は社会全体や社会の一部、あるいは社会現象を対象とし、社会の成り立ちや変化、社会の構造や機能、社会問題や課題などを研究しています。社会学の研究方法としては、観察、調査、比較、歴史的分析などがあります。社会的な見方は、社会現象を客観的に把握し、社会の複雑さや多様性を理解することを目的としています。他の社会科学と比較すると、社会学は広い視野で社会全体を取り扱い、社会の構造やシステム、社会変革などを重視している特徴があります。また、社会学は、社会的な現象を個人の行動や認識、集団の相互作用や文化などから説明することが特徴です。社会的な見方は、社会現象を単純な原因と結果の関係ではなく、複雑な相互関係として捉え、社会問題に対する理解を深めることができます。

#### 授業形態、授業方法等／Course form・type

##### 【授業形態】

対面授業

##### 【授業方法】

講義

・ICTを活用した授業（形態：クリッカー、タブレット端末、スマートフォン等を活用した双方向型授業／遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

授業はmoodleのクリッカー機能を活用した双方向形式で行う。

・その他

本講義はmoodleによるテストと課題提出の授業です。

#### 授業内容・授業計画／Course description・plan

第1講 社会学への招待：思考の枠組みを学ぶ

社会学の基本的な枠組みである三つのパラダイムを理解し、社会的想像力を活用することで、日常的社会現象を新たな視点で捉える力を養う。

第2講 文化の多様性：普遍性と相対性の対話

文化の相対性と普遍性の観点から、異文化理解を深める。現代社会における文化変容の課題を探究し、多文化共生社会の可能性を考える。

第3講 自己形成の旅：社会化とアイデンティティ

社会化のプロセスを通じて自己がどのように形成されるのかを学び、アイデンティティが社会的・文化的要因によって再構築される仕組みを理解する。

第4講 見えない力学：社会構造と相互行為の繋がり

社会構造と日常生活の相互行為を分析する視点を学び、シンボリック相互作用論を用いて社会現象の背景を読み解く。

第5講 逸脱の社会学：規範と反規範の狭間

逸脱行動を規範と反規範の視点から捉え、その社会的機能や影響をラベリング論を基に分析する。

第6講 変容する家族：多様化する家族のかたち

家族の歴史的な変遷と現代社会における多様性を学び、家族が持つ社会的役割の変化を検討する。

第7講 教育と宗教：価値観と規範の伝承装置

教育と宗教の社会的役割を比較し、それらがどのように価値観や規範を形成し、社会に伝達しているかを探究する。

第8講 集合行動の力学：メディアとの交錯

集合行動がメディアによってどのように影響されるかを学び、マス・メディアが社会変動に果たす役割を考察する。

第9講 経済と政治の交差点：変革の力学

資本主義と社会主義の基本的な違いを学び、グローバル経済と政治の関係性を分析することで、現代社会の動向を理解する。

第10講 格差の拡大：不平等とそのメカニズム

社会階層の再生産や不平等の拡大について考え、不平等のメカニズムとその影響を理解する。

第11講 ジェンダーの社会学：性差を超える視点

ジェンダーの形成と変化を学び、フェミニズムの理論を通じてジェンダー平等の課題を社会的視点で分析する。

第12講 国と民族：エスニシティとナショナリズムのゆくえ

エスニシティとナショナリズムの概念を理解し、移民政策や社会統合の課題を具体的な事例で検討する。

### 第13講 人口・健康・環境：未来への挑戦

人口動態と健康の相互作用を分析し、健康格差や環境問題を持続可能な視点から考える。

### 第14講 都市の社会学：変容するコミュニティ

都市化がコミュニティに及ぼす影響を学び、現代の都市問題とその解決策を検討する。

★オンデマンド授業（90分）：グローバル経済の潮流を読む

社会変動理論を基に、グローバル経済が社会変動に与える影響を分析し、未来社会の展望を探る。

オンデマンド授業は約90分の動画を4月25日までにチームズで配信する。

## 事前・事後学修／Preparation and assignments

事前学修では受講に必要な知識・意識を身につけるため、教科書や参考書の熟読を義務付けています。事後学修では講義内容を通じて講義の目的を明確化し、「事後学修レポート」の提出を求めます。なお、事前学修は各授業2時間、事後学修も各授業2時間必要です。

### 第1講 社会学への招待：思考の枠組みを学ぶ

事前学修：教材を読んで社会学の三つのパラダイムを学び、基礎を固めましょう。

事後学修：社会学的想像力を活用して、自分の日常生活で見える社会現象を観察しましょう。

### 第2講 文化の多様性：普遍性と相対性の対話

事前学修：教材を読んで文化相対主義と文化普遍主義の違いを学びましょう。

事後学修：現代社会における文化変容について具体例を挙げ、自分の考えを整理しましょう。

### 第3講 自己形成の旅：社会化とアイデンティティ

事前学修：教材を読んで社会化と自己形成のプロセスについて理解を深めましょう。

事後学修：再社会化がアイデンティティ形成にどのように影響を与えるか、具体例を交えて考察しましょう。

### 第4講 見えない力学：社会構造と相互行為の繋がり

事前学修：教材を読んでシンボリック相互作用論の基本的な理論を学びましょう。

事後学修：日常生活における社会構造の影響を観察し、具体例とともに整理しましょう。

### 第5講 逸脱の社会学：規範と反規範の狭間

事前学修：教材を読んでラベリング論の意義を学び、逸脱行動の本質を理解しましょう。

事後学修：逸脱行動が社会統制に果たす役割を考察し、自分の見解をまとめましょう。

### 第6講 変容する家族：多様化する家族のかたち

事前学修：教材を読んで家族の歴史的変遷と現代における多様性について学びましょう。

事後学修：現代の家族のライフサイクルが社会全体に及ぼす影響を考察しましょう。

### 第7講 教育と宗教：価値観と規範の伝承装置

事前学修：教材を読んで教育と宗教の役割の共通点と違いを理解しましょう。

事後学修：教育が価値観や道徳の形成に果たす役割を具体的な事例で整理しましょう。

### 第8講 集合行動の力学：メディアとの交錯

事前学修：教材を読んでマス・メディアの機能とその影響を学びましょう。

事後学修：メディアが集合行動に与える影響について、自分の視点で考えましょう。

### 第9講 経済と政治の交差点：変革の力学

事前学修：教材を読んで資本主義と社会主義の基本的な違いを学びましょう。

事後学修：グローバル経済が現代の政治とどのように結びついているかを分析しましょう。

### 第10講 格差の拡大：不平等とそのメカニズム

事前学修：教材を読んで現代社会における不平等の背景を学びましょう。

事後学修：教育が社会階層の再生産に果たす役割を具体的な事例で考えましょう。

### 第11講 ジェンダーの社会学：性差を超える視点

事前学修：教材を読んでジェンダー役割の形成過程と歴史的背景を学びましょう。

事後学修：フェミニズムの理論を用いて現代社会におけるジェンダー課題を分析しましょう。

### 第12講 国と民族：エスニシティとナショナリズムのゆくえ

事前学修：教材を読んでネイションとエスニシティの概念を理解しましょう。

事後学修：移民政策が社会統合にどのような影響を与えるかを自分なりに整理しましょう。

### 第13講 人口・健康・環境：未来への挑戦

事前学修：教材を読んで人口動態と健康の相互作用を学びましょう。

事後学修：健康格差の解決に向けた持続可能な視点を考えましょう。

### 第14講 都市の社会学：変容するコミュニティ

事前学修：教材を読んで都市化がコミュニティに与えた影響を学びましょう。

事後学修：都市問題の解決に向けた可能性を検討しましょう。

★オンデマンド授業（90分）：グローバル経済の潮流を読む

事前学修：教材を読んで社会変動理論の多様な視点を学びましょう。

事後学修：グローバル経済が社会変動に果たしている役割を分析し、未来への展望を考えましょう。

## 授業の到達目標／Expected outcome

初歩的に社会学的な眼差しや思考方法を習得することがこの講義の到達目標です。

#### 身につく資質・能力／Competencies to be attained

- |                                                                                                       |                                                                                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 思考力</li><li>・ 幅広い教養</li><li>・ 協働性・協調性</li><li>・ 倫理性</li></ul> | <p>専門知識・専門技能</p> <p>【経営学部 マネジメント学科】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 基礎的なマネジメント力</li><li>・ アカウンタビリティとガバナンスの基礎知識</li><li>・ マーケティングとイノベーションの基礎知識</li><li>・ 戦略と組織の基本知識</li></ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### 履修上の注意／Special notes, cautions

授業は主として講義方式で、授業への参加度を重視します。最初の講義時に講義概要および注意点について説明を行いますので、必ず出席しましょう。

本講義はmoodleによるテストと課題提出の授業です。

受講態度が目にと余ると教員が判断した場合は減点の対象とします。

出席回数が全講義の2／3以上ない場合、評価は「/（出席日数不足）」とします。

#### 評価方法／Evaluation

授業中の小テスト（50%）、事後学習課題（10%）、中間テスト（20%）、臨時試験（期末テスト）（20%）に基づいて総合的に評価します。原則として出席が3分の2に達していない者（特別な理由がある人は除く）は、成績評価の対象外となります。

#### 教 材／Text and materials

李為著『社会学—発見と洞察』ミネルヴァ書房（2025年）

#### 質問や相談の方法／Instructor contact

研究室：第1研究室棟853室  
オフィスアワー：火曜日（12:15～13:10）  
連絡先：moodleに記載するメールアドレス  
授業に関する質問や相談などがある場合は、上記時間に研究室へ訪問するか、メールで質問すること。